

V O L V O

# PÅ VÄG ポ・ヴェーグ

Volvo Trucks Japan  
Customer Magazine

Issue No.72  
March 2025

## 東北の農畜産業を支える 配合飼料輸送のエキスパート



# THE WORLD'S SAFEST VOLVO.

## 世界最高水準の安全性



ボルボ FH のキャブ構造は、ゼロからデザインされたものです。その結果、ボルボ史上最も安全なキャブが誕生しました。たとえ静止している物体に時速 80 キロで衝突したとしても、ドライバーの命を高い確率で守ります。それは、世界で最も厳しいといわれるスウェーデン式衝突試験で実証済み。この試験では、ルーフへの 17 トンの圧力や、リアと A ピラーへの 29.4 キロジュールの衝撃にも耐えてきました。いくらキャブ構造が頑丈でも、飛んできたパーツでケガをするようなら、安全なトラックとは言えません。だから、ボルボでは接合部の安全性についても、何度も繰り返しテストを行っています。世界最高水準の安全性。それは、ボルボ・トラックが長年にわたって厳しい衝突試験を積み重ねてきた証なのです。

**V O L V O**





P08



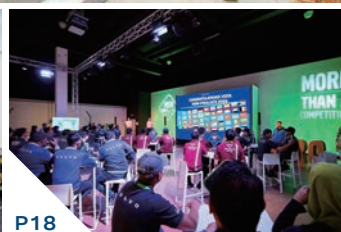
P07



P12



P16



P18

## CONTENTS

P08

# 東北の農畜産業を支える 配合飼料輸送のエキスパート

東北6県を中心に配合飼料の輸送を担う釜淵運送有限会社が、さらなる進化を目指して2台のボルボFHリジッドを導入した。

P07

## お客様のニーズに合わせたトータルサービスを提供

大阪府のボルボ・トラック正規ディーラー、丸毛自動車工業株式会社を紹介する。

P12

## 際立つ静粛性と滑らかな走行感

釜淵運送有限会社のドライバー、山館 信さんは、ボルボ・トラックの快適さが日々の業務を劇的に変えたと語る。

P16

## ガストラックの導入は未来への投資

スペインのトランスヌゴン社は現在、保有トラックの40%以上がボルボFH LNGをはじめとしたガスエンジン車だ。

P18

## 世界を目指した熱き戦い

「VISTA 2023-2024」のセミファイナルに出場した日本の2チームに大会の感想などについて聞いた。

# LNGトラックが切り拓く クリーン輸送の新たな可能性

一昨年に引き続き、昨年もボルボ・トラックの日本における登録台数の記録を更新することができました。ボルボ・トラックをご愛顧いただいているユーザーの皆様のおかげです。心から感謝いたします。

日々お客様を支えている全国各地のディーラーと共に、これからもお客様のサポートに全力を注いでまいります。

ボルボ・トラックの良さが多くの方に認められ、購入の際の選択肢の一つに入ってきていることを大変嬉しく思います。会社の宣伝としてだけでなく、ドライバーの環境改善のため、さらには走行性能や燃費も評価され、多くのお客様に選ばれるようになってきたと感じます。今後も、お客様に喜ばれるトラック、サービスを提供してまいります。

本誌にも記事があります通り、昨年7月から、環境省の実証実験プロジェクトで2台のボルボFH LNGトラックの運用が始まりました。

日本では、大型トラックのほとんどがディーゼルを燃料とする中、CO<sub>2</sub>排出量の削減が喫緊の課題となっています。

ボルボ・トラックは2017年に欧州でLNGトラックの販売を開始しており、欧州を中心に累積販売台数は6,000台以上にのびます。日本をはじめ、さまざまな地域で代替燃料への関心が高まる中、世界有数のLNG輸入国である日本市場において、ボルボ・トラックの代替燃料ソリューションは、よりクリーンな輸送の新たな可能性を切り拓くことを確信しています。

インフラ整備や補助金等の準備など乗り越える壁はいくつかありますが、今後、日本においても商用次世代車両(NGV)の需要が高まっていくことを実感しており、その一躍を担う覚悟が問われています。

ボルボ・トラックは今後も、ゼロエミッションを目指し、カーボンニュートラルソリューションの提供を念頭に製品開発に力を注いでまいります。

ボルボ・トラックセールス  
バイスプレジデント  
**関原 紀男**



## PÅ VÄG ボ・ヴェーグ

本誌は、ユーザーの皆様とボルボ・トラックを結ぶコミュニケーション誌です。「PÅ VÄG (ボ・ヴェーグ)」とは、「旅の途中」「移動中」を意味するスウェーデン語。ボルボ・トラック・ユーザーの皆様が日々営む輸送業務をイメージしたタイトルであると同時に、ボルボ・トラックの進化し続ける姿勢も表しています。本誌の内容についてのご意見・ご要望は、お気軽にUDトラックス(株)ボルボ・トラックセールスまでお寄せください。



volvotrucks.jp



facebook.com  
VolvoTrucksJapan



instagram.com  
volvotrucksjp



youtube.com  
volvotrucks



## ボルボFH LNGを国のカーボンニュートラル事業に提供

ボルボ・トラックは、環境省の令和6年度地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業「小規模分散型LNG充填所ネットワーク構築による大型トラック物流の低炭素化手法の実証」にLNG（液化天然ガス）トラックであるボルボFH LNGを提供した。この事業は、大型トラックのCO<sub>2</sub>排出量の削減を目的とし、三菱商事株式会社が代表事業者として受託したもので、北海道苫小牧市と石狩市に設置された小型LNG充填設備を拠点に進められている。本事業の実証実験開始以来、大型LNGトラックによる走行試験が実施されてきたが、トラックへの需要に応える形で、2024年7月11日から同車両2台の運用が開始された。

日本では大型トラックの燃料

のほとんどがディーゼルであり、CO<sub>2</sub>排出量の削減が喫緊の課題となっている。ボルボのLNGトラックはディーゼル車と比較して約20%のCO<sub>2</sub>削減が可能で、液化バイオメタンを使用すればさらに削減率が向上する。最長走行距離は約800~900kmで、LNGがなくなった場合でもディーゼルのみでの走行が可能なデュアルフューエルとなっている（速度は20km/h以下となる）。

ボルボ・トラックのスウェーデン本社の海外営業部門責任者であるパー・エリック・リンドストロームは、「世界有数のLNG輸入国である日本市場において、ボルボの代替燃料ソリューションがよりクリーンで静かな輸送の可能性を広げると確信しています」とコメント。また、ボルボ・トラック



苫小牧市に設置されている小型LNG充填設備とボルボFH LNGトラック。

セールスの関原紀男は、「大型トラック物流の低・脱炭素化を目指すこの事業で、ボルボ・トラックのLNGトラックを用いて日本国内でのカーボンニュートラルに向けて貢献できることを大変嬉しく思います」と述べた。

ボルボ・トラックは2017年に欧州でLNGトラックの販売を開始しており、欧州を中心に累計6,000台以上のLNGトラックを販売している。今回の事業は日本国内での低炭素輸送の可能性を広げる重要なステップとなる。■

## 「VISTA 2023-2024」でスイスのチームが頂点に



予選、準決勝を勝ち抜いた40チームが決勝大会で競い合った。Photo: Ian Wallman

2024年9月、「VISTA 2023-2024」のワールドファイナル（決勝大会）がスウェーデンのイエテボリで開催され、スイスのチーム

「NTC1」が優勝し、最高の栄誉を手にした。

VISTAとは、Volvo International Service Training Award（ボル

ボ国際サービストレーニング賞）の略で、ボルボ・トラック、ボルボ・バスのメカニックを対象にその知識と技術、チームワークを競う大会である。1957年に第1回大会が開催され、1970年代にはすべての大陸のボルボ認定ディーラーから参加者が集まるほどに拡大。今では、2年に一度開催される世界最大級のアフターサービスの技術競技会となっている。

今回の「VISTA 2023-2024」では、76カ国から17,872チームが参加し、予選から激しい競争が繰り上げられた。特に今大会では、エレクトロモビリティや自動運転技術、環境対応型輸送に関す

る最新技術が課題に含まれ、ボルボの進化する製品群への深い理解が求められた点が特徴的だった。

各地の予選を勝ち抜いたチームは、米国、ブラジル、イタリアで開催されたセミファイナルに進出し、最終的に40チームが決勝大会に駒を進めた。

VISTAは単なる競技大会ではなく、サービスネットワーク全体のスキル向上と結束を図る重要な取り組みである。ボルボは、VISTAを通じて顧客満足度の向上と業界の発展を目指しており、その理念が世界中の参加者に共有されている。■

## 「ジャパントラックショー2024」で ボルボ・トラックの高い安全性をアピール



ボルボのブースでは、キャブ内部の見学を希望する来場者の長い列ができていた。



2024年5月9～11日、パシフィコ横浜で開催された「ジャパントラックショー2024」にボルボ・トラックが出展し、高い安全性をアピールした。

ジャパントラックショーは、物流・輸送業界に特化した日本最大級のトラック関連総合展示会。今回は過去最大規模の156社が出

展し、来場者は3日間で62,000人以上にのぼった。ボルボ・トラックは、2024年に追加設定されたハイルーフ仕様のボルボFH6×4トラクター グローブロッターキャブを展示、キャブ内部を来場者が体験できるコーナーを設けた。運転席の視界の良さや室内の広さ、高品質なベッドなどを実

感できる体験は人気を集め、順番待ちの列が絶えなかった。

今回の展示では、安全性に焦点を当てたアプローチを展開。スクリーンで安全性に関連した映像を流すとともに、営業・製品担当者が最新の安全装備について来場者に説明した。ボルボは、世界で初めて3点式シートベルトを導入するな

ど安全性を追求し続けてきた長い歴史を持ち、現在も交通事故調査の結果を研究開発に活かすなど、すべての道路利用者の安全性向上を目指して努力を続けている。

ボルボ・トラックは今後も展示会への参加などを通じて、高い安全性能を多くの人に体感してもらう機会を増やしていく予定だ。■

## ボルボ・トラック中国が交通安全ワークショップを開催

ボルボ・トラックは、トラックが関与する交通事故ゼロを目指し、安全装置の開発などに加え、他の道路利用者への注意喚起に

も積極的に取り組んでいる。その一環として、正規ディーラーのボルボ・トラック中国 株式会社キャリオンは、夏休み期間中に子

ども向け交通安全ワークショップ「Stop, Look, Wave(止まって、見て、手を上げて)」を開催した。このワークショップは、キャリオンがスポンサーを務めるプロサッカーチーム、ファジアーノ岡山のホームゲームの日にシティライトスタジアム(岡山県陸上競技場)のスタジアム前広場で実施された。

「Stop, Look, Wave」は、2015年にボルボ・トラックが開始した国際的な交通安全キャンペーンであり、小学生を主な対象とし、ボルボ・グループのスタッフや学校関係者、行政機関と連携

して世界各国で展開されているプログラムである。

今回のワークショップでは、参加した多くの子どもたちがトラックの死角や横断歩道での注意点について学んだ。実際のシチュエーションを想定した体験を通じて、道路上での安全意識を高める機会となった。

ボルボ・トラックはディーラーやカスタマー、自治体などと協力し、未来を担う子どもたちの交通安全意識を育むとともに、安全で持続可能な社会づくりへの貢献を目指している。■



「Stop, Look, Wave」はボルボ・トラックが世界中で行っている交通安全キャンペーン。



## ディーラー紹介：丸毛自動車工業株式会社 堺工場（大阪府） お客様のニーズに合わせたトータルサービスを提供

日本全国のボルボ・トラック正規ディーラーを紹介するシリーズ。今回は大阪府にある丸毛自動車工業株式会社を紹介する。

—— 会社の概要を教えてください。

当社は1953年創業で、2024年10月で71年目を迎えました。本社（大阪府寝屋川市）と堺工場（大阪府堺市）の2拠点で事業を展開しており、ボルボ・トラックのメンテナンスサービスは堺工場で行っています。

—— ボルボ・トラックを担当するメカニックは何名いますか。

本社寝屋川工場に2名、堺工場に5名の計7名です。担当メカニックは定期的にボルボの研修を受け、最新の技術を習得することで、常に高い水準のサービスを提供しています。

—— 御社の強みを教えてください。

車検・点検などの基本的な整備に加え、钣金塗装や新車架装を内製化している点が当社の特徴です。これにより、お客様のニーズに合わせて、一貫したトータルサービスを提供できる体制を整え

ています。また、ボルボ・トラック専任のメカニックが培ってきた技術と経験で、安心してお客様にトラックをご利用いただけるよう努めています。

—— 全国のボルボ・トラック・ユーザーにメッセージをお願いします。

1996年3月からボルボ・トラックの取り扱いを開始し、今年で29年目を迎えます。長年の経験を活かし、また常に最新の整備技術を習得することで、お客様に安心してボルボ・トラックにお乗りいただけるよう、誇りを持ってメンテナンスを行っています。ボルボ・トラックのことで万が一のトラブルやお困りのことがございましたら、お気軽にお問合せください。■

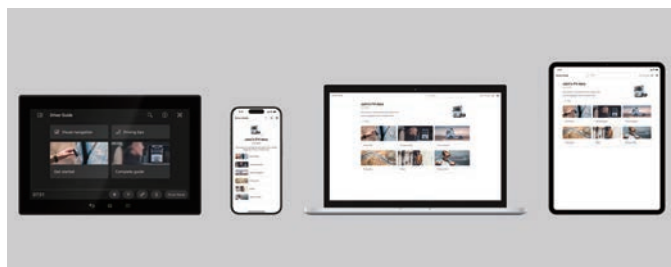
### 丸毛自動車工業株式会社 堺工場

〒590-0982  
大阪府堺市堺区海山町4丁170  
TEL: 072-238-4631  
FAX: 072-228-0971  
<https://marumo-jikou.co.jp/>



ボルボ・トラックのメンテナンスを主に担当している丸毛自動車工場の堺工場。

## 生産性向上に寄与する便利なアプリが登場



ドライバーガイドについて、詳しくはこちらをご覧ください。  
<https://www.volvotrucks.jp/ja-jp/trucks/trucks/driver-guide.html>



ボルボ・トラックの操作に関するあらゆる情報を確認できる「ボルボ・トラック ドライバーガイド」を活用していますか。ウェブサイトやスマホアプリで誰でも利用でき、トラックのサイドディスプレイにアプリをダウンロードして使用することも可能です。

ボルボ・トラックのシャーシ番号を入力すると、その車両専用の

ドライバーガイドを閲覧できます。シチュエーション別に運転のアドバイスを紹介する「運転のヒント」、操作方法や機能説明を視聴できる「ビデオ」などを用いて、分かりやすく説明しています。

トラックの使い方を正しく理解することは生産性の向上にもつながります。ぜひご利用ください。■

八戸港のポートアイランドに架かる  
八戸シーガルブリッジを駆け抜ける  
釜淵運送のボルボFHリジッド。





# FEED THE FUTURE

## 東北の農畜産業を支える 配合飼料輸送のエキスパート

東北6県を中心に配合飼料の輸送を担う釜淵運送有限会社。  
30年以上にわたり地域の農畜産業を支えてきた同社が、  
さらなる進化を目指して2台のボルボFHリジッドを導入した。  
その選択の理由やボルボ・トラックの印象などについて釜淵嘉与社長よしどもに聞いた。

Text: YASUHIRO NODA Photo: KENTARO SHIMIZU



青森県の最南部、岩手県・秋田県との境に位置する三戸郡田子町たっこまち。豊かな自然に囲まれたこの地に本社を置く釜淵運送有限会社は、30年以上にわたり配合飼料の輸送を主業務とし、地域の畜産業・農業を支えてきた。現在、従業員数は約120名で、車両保有台数は約170台。八戸（青森県）、栗原（宮城県）、花巻（岩手県）、苫小牧（北海道）、伊達（北海道）に営業所を構え、東北6県を中心に地域に密着した物流サービスを展開している。

### 豊富な経験と充実した車両で 多様なニーズに応える

釜淵運送の一番の強みは、長年の経験で培った配合飼料輸送のノウハウと、さまざまなニーズに対応できる充実した保有車両だ。配合飼料メーカーの工場は、輸入原料を使用することから八戸や釜石、石巻など港に近い場所にある。釜淵運送は、これらの工場で積み込んだ配合飼料を各県のターミナルや倉庫、生産農家などに運んでいるが、配送先に応じて使用するトラックを変える必要があると釜淵嘉与社長は言う。

「まず、お客様によって粉粒のまま運ぶ場合と袋詰めした状態で運ぶ場合がありますので、バルク車とダンプ車などを用意する必要があります。また、広い道路に面した配送先に効率的に運びたいときにはフルトレーラーなどを使用しますが、山間部の生産農家さんに配送する場合には、そうした車両では入れませんのでリジッド車を使います。ひと言で配合飼料輸送と

いっても配送先へのルートやお客様のご要望はさまざまなので、どのようなニーズにもお応えできるように多様な車両を取り揃えておく必要があるのです」。

適正な量を適正なタイミングで安全に配送するために、路線ごとに最適な車両を選んで運搬する。そうした日々の運行計画を的確に作成できるのも、配合飼料輸送における長年の経験があればこそだ。

2024年秋、この多様な車両リストに2台のボルボFHリジッドが加わった。いずれもフルーフサス仕様で22トンのバルク車と25トンのダンプ車だ。なお、このバルク車は、ボルボ・トラックの国内第1号のバルク車となる。ボルボ導入の経緯を釜淵社長は次のように語る。

「他社のボルボ・トラックが走っているのを見て、いいなと思っていたのですが、トラクターしか見たことがありませんでした。そこでディーラーさんに相談してみたところ、リジッド車もあることがわかりました。それなら、試しにバルク車を1台導入してみて、良ければリピートしようと思いました。同時に、ダンプ車もちょうど更新時期が来ていて新車が必要だったので、どうせならバルク車とダンプ車を1台ずつ入れて試してみようということになりました」。

### ボルボ・トラックがもたらす 最上級の快適性と安全性

釜淵社長は同社に入る前、トラックメーカーに勤務し、整備を担当していた経験を持つ。したがってト



八戸港沿岸に並んで停車するボルボFHリジッドのダンプ車とバルク車。この2台は八戸営業所を拠点に活躍している。

トラックに関する知識は豊富で、性能や品質をしっかり  
と見極める目を持っている。新車を導入した際には必  
ず自らハンドルを握り、自分の目で良し悪しを判断し  
ているという。そんな釜淵社長に、ボルボ・トラック  
を運転してみた感想をうかがうと、次のような答えが  
返ってきた。

「本当に乗り心地がいいですね。一番違いを感じ  
たのは静粛性。周りの音がほとんど聞こえてこないの  
には驚きました。走行安定性も素晴らしい。道路の段

差を通過するときの振動が国産車と比べてかなり少な  
いと感じました。フルーフ車なので、どうしてもダイ  
レクトに振動は来んですが、それでもフルーフ  
を感じさせないくらい快適な乗り心地です」。

視認性が良いこともボルボ・トラックならではのメ  
リットだと釜淵社長は言う。

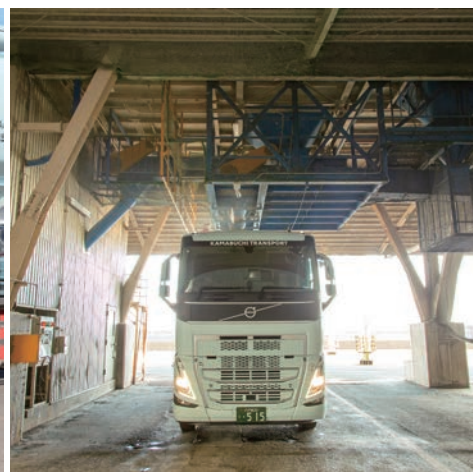
「視線が高くて見通しがいい。国産車と視界が全然  
違います。パッセンジャーコーナーカメラやバックモ  
ニターも優秀で、死角になるところが見やすくなった  
とボルボ担当のドライバーからも好評です。特に配送  
先の狭い構内での取り回しや交差点での左折時などに  
安心感があると言っています。安全への取り組みに特  
に力を入れている当社としては、こうした装備はうれ  
しいですね」。

ボルボ・トラックは安全性重視の車体重量の関係で、  
国産車に比べて積載量が多少減ってしまう。しかし、  
ドライバーからの高評価を踏まえると、それを上回る  
メリットがボルボにはある、と釜淵社長は断言する。

## 「一番違いを感じるのは 静粛性。周りの音が ほとんど聞こえてこない のには驚きました」

釜淵運送有限会社 釜淵嘉与 社長





MOVIE »



上記のQRコードから動画をご覧ください。

左上: 釜淵社長(右から2番目)とドライバーの皆さん。その他: 工場での飼料積み込みの様子。安全のためヘルメットと長靴の着用が義務付けられている。

「今後もボルボ・トラックの導入を前向きに考えていきたい。次は25トン、フルエアサスでグローブトロッターキャブのバルク車の導入を検討しています。また、フルトレーラーのバルク車にも興味があります」。

### 地域社会を活性化する 「血液」のような存在を目指して

釜淵運送は2023年に設立30周年を迎えた。そして2024年は釜淵氏の社長就任10周年の年であった。この節目に、同社は新たな「ミッション(使命)、ビジョン(未来像)、バリュー(価値基準)」を策定し、同時に企業ロゴを一新した。新ロゴの赤のラインは「情熱」、青のラインは社是である「信頼・誠実」を表している。また、赤と青が「動脈」と「静脈」をイメージすることから、地域を活性化し好循環させる「血液」のような存在になるというメッセージも込められているという。

「物流の2024年問題乗り越えるためにも、これ

からの数年は会社の基盤をもう一度固め直す時期だと考えています。その軸となるのは、より一層の安全への取り組みとコンプライアンスの重視です。それを達成した先に、さらなる成長が期待できると思っています」と釜淵社長。次の10年を見据え、釜淵運送はボルボ・トラックという新たなパートナーとともに、ドライバーにも地域にも優しい物流を目指し進化し続けていく。■

#### 釜淵運送株式会社

〒039-0201  
青森県三戸郡田子町大字田子  
字七日市上ノ平9-1  
TEL: 0179-32-2300  
FAX: 0179-32-2195  
<https://kamabuchiunso.com/>





DRIVER INTERVIEW

# QUIET & SMOOTH

## 際立つ静粛性と滑らかな走行感

釜淵運送の山舘 信さんが語るボルボ・トラックの魅力。  
広いキャブ、静粛性、滑らかな走行感をもたらす快適さが、日々の業務を劇的に変えた。

Text: YASUHIRO NODA Photo: KENTARO SHIMIZU



山舘 信さん

ドライバー歴: 15年

ボルボ・トラック乗車歴: 2カ月

主な輸送品: 配合飼料

運行地域: 東北各県





#### ボルボFH 2023年モデル

モデル: FH 6×4リジッド  
トランスミッション: I-シフト  
エンジン出力: 551PS  
キャブ: スリーパー  
サスペンション: フルリーフ

釜淵運送のドライバー、山舘 信さんはボルボトラックに乗り始めて約2カ月。今まで乗っていた国産車との違いに驚くことが多いという。第一印象でまず感じたのは、キャブ内の広さと外観の良さだ。「天井が高いし、真ん中の出っ張りがないからすごく広く感じます。収納スペースも豊富で、冷蔵庫やパーキングヒーターなどの設備が充実しているのもうれしいですね。見た目もカッコいいですね。目立つのでお客様や他のドライバーに声をかけられることも多いです。そういう意味では、ボルボトラックが周りの

方とのコミュニケーションツールになっています」。

実際に運転してみて驚いたのは、圧倒的な乗り心地の良さだ。特に車内の静粛性や振動の少なさには大きな違いを感じたという。「車内が驚くほど静か。だから運転に集中できます。体を感じる振動も少ない。道路の段差を通る際に、今までは『ガクン』となっていたのが、ボルボは『フワッ』と滑らかに通り過ぎる感覚です」。

操作性やパワーについても想像以上だったという。「ハンドルが軽くて運転が楽。以

前は荷物を満載するとどうしてもハンドルが重くなっていたのですが、ボルボは満載でもハンドルが軽い。エンジンのパワーも文句なし。配送先には坂道も多いのですが、あまりアクセルを踏み込まなくてもグイグイ登っていきます」。

そうしたことが相まって心身に余裕をもって運転できるようになり、疲れにくくなったと語る山舘さん。気持ちの余裕はドライバーの安全意識や業務のモチベーションにもつながる。ボルボトラックは、日々の業務を快適で充実したものに変わるトラックだ。■



# GAS FORWARD

## ガストラックの導入は 未来への投資

スペインのトランスヌゴン社は現在、保有トラックの40%以上がガスエンジン車だ。  
パブロ・ボルディルス・モンテロ社長は、「ガストラックだけで車両を揃えることが目標。

ボルボFH LNGがそれを可能にします」と語る。

ボルボのガスエンジン搭載トラックは、燃料費削減と新規顧客獲得の両面から、  
同社に多くのメリットをもたらしている。

Text: LINDA SWANBERG Photo: PATRIK OLSSON

スペイン・バレンシア郊外の、何の変哲もない工業地帯にあるトランスヌゴンの本社。フェンスに掲げられた控えめな看板に出迎えられ敷地内に入ると、早朝のためか、広いアスファルトのヤードに駐車されているトラックはまばらだ。オフィスは数棟並ぶ仮設建築物のような建物の中にあり、近くにはトラックの洗浄施設と小さな作業場がある。

一見したところ、トランスヌゴンが高い目標掲げる急成長中の運送会社であることを示すものはほとん

ど見当たらない。だが、同社は少数の顧客と約50台の車両を抱える小さな家族経営の会社から、最初のガストラック導入後9年で約400台のトラックを保有する物流企業へと成長を遂げた。しかも、トラックの台数は日々増え続けている。

「当社がここまで成長できたのは、リスクを恐れず、柔軟に対応してきたからです。私たちは決してノーとは言いません。お客様が新しいトラックを要求すれば、将来のことはあまり考えずに購入します。高い対応力



トランスヌゴンは数週間にわたりボルボFH LNGを試験運用した。「これはガストラックの開発における大きな一歩です。ディーゼルトラックと同等の性能を持つガストラックが初めて登場したのです」とボルディルスさんは語る。





があるおかげで、常にお客様のご要望に応えることができるのです。たとえば明日、マドリードまで25件の配送依頼があれば、私たちはそれを実行します」と、3人いる共同オーナーの一人であり、代表取締役を務めるパブロ・ボルディルス・モンテロさんは言う。

### 家族経営から急成長企業へ トランスヌゴンの転換点

同社の顧客の多くは食品関連企業で、主な輸送品は冷凍食品や生鮮食品、ドライ食品などだ。それらをバレンシア周辺地域を中心にスペイン国内の店舗やスーパーマーケットに配送している。

「ほぼ毎日同じルートを運行し、年中無休の24時間体制でお客様にサービスを提供しています。食品を扱う仕事ですから、車両のコンディションが安定していて、時間通りに到着することが極めて重要です」。

ボルディルスさんがトランスヌゴンで働き始めたのは10年前のことで、それ以前は同社の顧客だった。彼の妻の家族がスペイン最大級の食品チェーンにミネラルウォーターを供給する会社を経営しており、トランスヌゴンが配送を担当していたのだ。成長の鈍化に

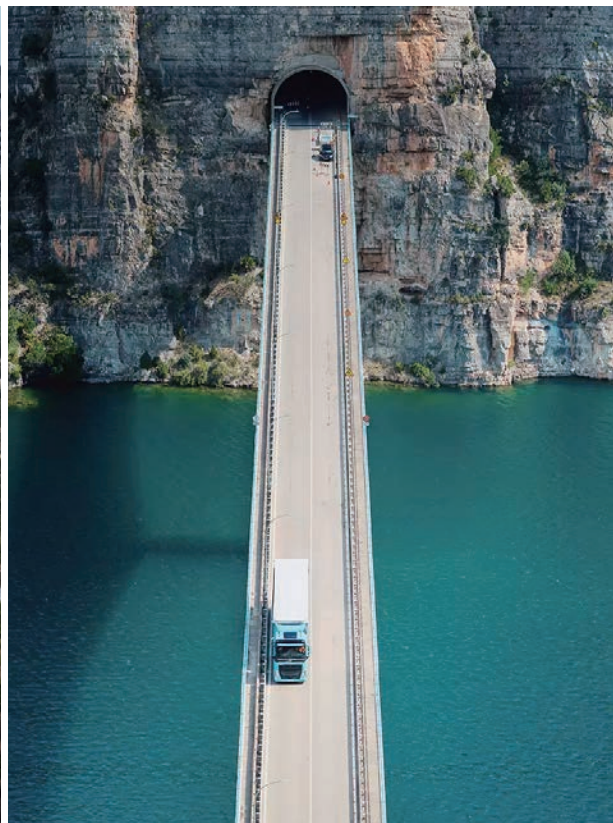
苦慮していたトランスヌゴンのオーナーたちは、ボルディルスさんに経営を引き継いでくれないかと持ちかけた。「トランスヌゴンとは良い関係を築いていましたが、物流の仕組みについてはあまり知識がありませんでした。しかし最終的に、会社の3分の1の株を買取り、経営に参加することになったのです」。

現在、ボルディルスさんは、共同オーナーであるホルヘ・ヌニェス・ゴンサレスさんとホセ・マリア・ヌニェス・ゴンサレスさん兄弟と共に会社を所有している。同社は兄弟の父であるホセ・マリア・ヌニェス・ロメロさんが1990年代後半に創業した会社だ。「私たちは家族ではありませんが、家族同然に感じています。お互いにやるべきことを理解し、全員が同じだけ働き、稼いでいます。一体感を持って協力できたことが、今日の成功の鍵だと思っています」。

### 最新トラックの導入と 新たな挑戦の始まり

ボルディルスさんがこのビジネスに加わったときから、大きな変革期が始まった。短期間のうちに、彼は古いトラックをすべて新しいものに入れ替えた。「最

「結果には非常に満足しています。ディーゼル車を含む数種類のトラックと、高速道路で比較走行しましたが、結果はボルボFH LNGが抜き出ていました」とボルディルスさんは言う。



新の車両があれば、お客様により良いサービスを提供できます。それがさらなる仕事や新たなトラック購入の機会につながりました」。

トランスヌゴンは古い車両を入れ替えるのと同時に、最初のカストラックのテストも行った。この試験運用はうまくいき、同社にとって最も重要な投資の一つとなった30台のカストラックの購入と自社ガス充填所の設置へとつながった。

「私は新しいことに挑戦し、常に改善し続けることにやりがいを感じます。飽きっぽい性格なので、計画を立て、前進し続けたいと思うのです。自社ガス充填

所の設置はその一例です」。

当初、カストラックへの投資は純粋に経済的な理由から行われた。ディーゼル価格が高騰しており、天然ガスの方がはるかに安価だったからだ。また、自社ガス充填所の設置は収益性の高い投資だった。現在、ディーゼル価格は当時より下落しているが、天然ガスは依然としてディーゼルより安く、トランスヌゴンのコスト削減に貢献している。天然ガスの大量購入によって、はるかに安価で燃料を充填でき、時間も大幅に節約できる。

### カストラックへの投資で競争力を強化

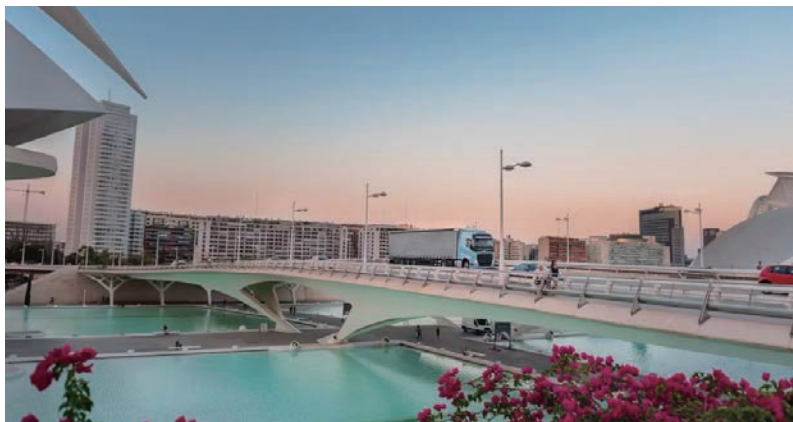
現在、トランスヌゴンは98台のカストラックを保有しており、これは同社の全車両の4分の1ほどに相当する。カストラックへの投資の背景には経済的な動機があったものの、環境に優しい輸送を提供することは他にも多くのメリットをもたらすとボルディルスさんは考えている。

「カストラックは顧客から高く評価されており、彼らの自社PRにも活用できる付加価値を提供してくれます。都市部の環境規制は、今後さらに厳しくなり、

**「カストラックは顧客から高く評価されており、彼らの自社PRに活用できる付加価値を提供してくれます」**

**トランスヌゴン社 パブロ・ボルディルス・モンテロ社長**





ガストラックによる輸送を求める企業が増えるでしょう」。

ボルディルスさんの目標は、すべての車両をガストラックで構成することだ。8年ほど前、数週間にわたってボルボFH LNGをテストした結果、この目標が現実味を帯びてきた。「ボルボFH LNGは、ディーゼルトラックと同等の性能と操作性を備えた初のガストラックです。マドリッドへの往復運行にも、短距離輸送にも同じように対応できます」。

## 持続可能な未来へ ボルボFH LNGが切り拓く新たな可能性

トランスヌゴンは現在、ボルボFH LNGトラックを増やしていく計画を進めている。このトラックはあらゆる輸送に対応できるだけでなく、燃料消費量が少ない点も大きなメリットだ。スペインの輸送業界は総じて利益率が低く、同社にとってはわずかな差が重要となる。

「ボルボFH LNGの燃料消費量は、他のガストラックよりも7~8%低く、同等のディーゼルトラックと比較すると15%も低い」とボルディルスさんは語る。ガストラックへの注力は競合他社との差別化につな

がっており、ボルディルスさんは同社が今後も成長し続けると確信している。

「事業を開始したときは『トラックを100台保有する』と言っていましたが、今では400台以上になりました。現在の状況やあらゆる可能性を考えると、成長の限界は見当たりません。優秀な人材と新しいパートナーを引き付けることができれば、スペイン最大級の輸送会社になれると考えています」。

トランスヌゴンは9年前に最初的气トラックを導入した際、同時に自社ガス充填所を設置した。ほとんどのガス充填を自社設備で行っており、燃料を大量購入することでコスト削減を可能にしている。

### トランスヌゴン社の概要

**設立:** 1998年

**輸送内容:** 主に食品会社向けの地域輸送

**代表:** パブロ・ボルディルス・モンテロ

**オーナー:** パブロ・ボルディルス・モンテロ、ホルヘ・ヌニェス・ゴンサレス、ホセ・マリア・ヌニェス・ゴンサレス

**車両保有台数:** 約400台(98台がガストラック)

**車両保有期間(売却前の使用期間):** 3~5年

右のQRコードから動画を  
ご覧いただけます。

MOVIE »



VISTA

# THE VISTA PATH

## 世界を目指した熱き戦い 日本代表が挑んだVISTAセミファイナル

ボルボ・グループの技術競技大会「VISTA 2023-2024」のセミファイナルが  
2024年6月にイタリアで開催され、国内予選を勝ち抜いたUDトラックス 川口カスタマーセンターの  
チーム“Kawaguchi.co.jp”と金沢カスタマーセンターのチーム“Hyakumangoku”が出場した。

惜しくもワールドファイナル進出は逃したが、世界の舞台で培った経験と絆は、  
次なる挑戦への大きな力となるだろう。2チームの代表にセミファイナルの感想などについて聞いた。

—— どのような意気込みでVISTAに臨まれましたか。

**橋本さん（川口カスタマーセンター）：**予選は、日本の他のチームには負けたくないという気持ちで臨みました。部品や車両の製品情報、配線図、メンテナンス情報などのさまざまなアプリケーションを駆使して問題解決に挑みましたが、難問に直面する場面も多く、答えを見つけるのに時間がかかることもありました。結果は総合5位で、特にラウンド2のメンテナンス計画に関連する問題は制限時間が厳しく、苦戦し

ました。

チームメンバーのラムキさんは非常に優秀で、彼から多くを学びましたね。

—— セミファイナルに参加した感想を教えてください。

**橋本さん：**会場のテンションに圧倒されました。各ステーションでの問題は予選よりも格段に難しく、正直、実力を十分に発揮できたとは言えませんでした。30分という制限時間の中で焦りながら挑みましたが、チームリーダーの古里さんとラムキさんは2回目の出場ということで落ち着いており、さすがだと思いました。

日本語しか分からない自分には通訳の方の助けが必要でしたが、結果としてファイナル進出には届かず、悔しい思いで帰国しました。それでも良い経験を積むことができましたし、今後、川口カスタマーセンターの若いメンバーにもぜひ挑戦してもらいたいです。

—— セミファイナルで見えてきた課題や今後の業務に活かせることはありますか。

**橋本さん：**日々の業務を

VISTAのようなコンテストだと考え、迅速かつ正確な点検や修理を行うことが重要だと感じました。お客様が車の故障で困っている状況の中、正しい点検方法や判断のもと、いかに早く修理を行うことができるかが大事です。また、パーツ検索ソフトなど専用のアプリケーションを熟知して、お客様が稼働を止めないような提案ができるチームを目指したいと思います。

—— 川口カスタマーセンターのアピールをお願いします。

**橋本さん：**川口カスタマーセンターは都心に近い立地にあり、多くのトラック整備を担当しています。安全を最優先に考え、適切な整備を通じてお客様のトラックの稼働時間を最大化できるよう、チーム一丸となって取り組んでいます。ボルボ・トラックをはじめ、トラック整備に関することならどんなことでもお気軽にご相談ください。■



左からマラム・ラムキさん（メカニック）、古里勇真さん（検査員）、橋本広広さん（ワークショップスーパーバイザー）。

UDトラックス株式会社  
川口カスタマーセンター

〒332-0004  
埼玉県川口市領家5-12-6  
TEL 048-225-1993  
<https://www.udtrucks.com/japan/dealer/kawaguchi>







セミファイナルは、5つのグループに分かれ、アメリカ、ブラジル、イタリアなどで開催された。日本の2チームはイタリアで行われた大会に参加した。

Photos: Ian Wallman

### —— どのような意気込みでVISTAに臨まれましたか。

**谷平さん(金沢カスタマーセンター)：**チーム“Hyakumangoku”は、結成以来6年間、さまざまな技術コンテストに挑戦してきました。VISTAでは、これまでセミファイナル進出を果たせず悔しい思いをしてきたため、今回はファイナル進出を目標に、忙しい業務の合間を縫って課題に取り組んできました。イタリアでの開催という点も、メンバーにとって大きなモチベーションになったと思います。



左から新保充彦さん(ワークショップスーパーバイザー)、谷平竜一さん(VISTAチームリーダー)、田中隆佳さん(ワークショップトレーナー)。

### —— セミファイナルに参加した感想を教えてください。

**谷平さん：**「難しかった！」というのが率直な感想ですね。限られた時間の中で高度な課題に取り組むプレッシャーは大きかったです。そうした厳しい状況の中でも、長年やってきたチームメンバー全員で、誰がどの問題に取り組んでいくかなど即座に判断し、意見を出し合い、一つ一つの問題を解決していきました。メンバー全員がそれぞれの得意分野を理解していたからこそ、円滑に進めることができたと思います。ファイナル進出とはなりませんが、全体を通じて楽しめたと思っています。

### —— セミファイナルで見えてきた課題や今後の業務に活かせることはありますか。

**谷平さん：**VISTAでの経験は、日常業務でのお客様対応と直結しています。限られた時間での修理や部品検索、問題解決の訓練は、お客様の稼働を止めないための業務の効率向上につながっています。そうした経験を活かし、現在、各メンバーとも最前線で活躍

しています。

また、パーツ検索ソフトや故障診断ツールを使いながらの作業は、普段からおこなっているので、作業能率が上がっています。これまで培ってきたことを活かして、拠点を牽引できる存在に各々がなっていけたらいいなと思っています。

### —— 金沢カスタマーセンターのアピールをお願いします。

**谷平さん：**金沢カスタマーセンターは、UDトラックスの「現場チャレンジ」やVISTAなどの技術コンテストで優秀な成績を残しています。直近でいえば、「現場チャレンジ」でファイナルに出場し、惜しくも上位入賞は逃しましたが、優秀なメカニックを続々と輩出しています。高い技術力と豊富な知識でお客様の車両を迅速かつ正確に診断し最良の整備を行います。お客様には安心して車両をお預けいただけると幸いです。■

UDトラックス株式会社  
金沢カスタマーセンター

〒920-0211  
石川県金沢市湊3-5-3  
TEL 076-238-3600  
<https://www.udtrucks.com/japan/dealer/kanazawa>







VOLVO



# 全てのお客様に、 安心のアフターサービスを

ボルボ・トラックは、お客様の使用条件に応じて1台1台に最適なメンテナンス計画をご提案します。この計画に基づき、適切なサービスを適切なタイミングでご提供することで、予期せぬ故障を最小限に抑え、トラックの稼働率を最大限に上げることができるのです。ボルボ・トラックを長く安心してお使いいただくために、メーカー保証期間を一般部品・駆動系部品とともに延長したパッケージ、ボルボ・ブルー・プレミアもご用意しています。ボルボ・トラックは、全てのお客様に、トラックの安心稼働をお約束します。

詳細につきましては、お近くのボルボ・トラック正規ディーラーにお問い合わせください。

